

「産学協同アントレプレナー教育プログラム」科目概要

基礎科目群

◆アントレプレナーシップ論(イノベーションと起業家精神)

実際の起業家の体験をより重視する観点から、シリコンバレーのケースを中心にアントレプレナーシップの本質を講義する。基本的には演習形式とし、受講者による討議を中心とした授業運営とする。

◆ベンチャービジネス論

現代社会における起業論とベンチャービジネス論についての理解を深める。また起業の基となるアイデア、イノベーションについて考えていく。

◆事業計画論

事業とは何か、その歴史、理想的な経営者像、事業の基盤である人・物・金に関わる基礎知識、決算書の読み方、これらの総括としての事業計画の立て方などを経営学・会計学・経済学との関連を念頭に置きながら企業社会の実務に即した講義を行う。

◆資金計画論

企業が事業活動を行うとき、必ず金の流れ(財務活動)が生じる。この企業の財務活動に関し、合理的な意思決定に必要な知識と理論について教育を行う。その主な内容としては、企業の投資に関する決定(資本予算)、増資・銀行借入・社債発行など多様な資金調達手段からの選択(資金調達決定)、株式と負債の割合の決定(資本構成)、配当の決定(配当政策)、安全かつ低費用の短期資金管理(運転資本管理)などがある。

◆生産システム論

本講義では、従来相対的に独立した系として扱われてきた生産(製造)、研究開発、企業内外、国内内外の生産、技術関連活動を一つの有機的な統一性をもつ生産システムとして捉え、経営(生産)戦略と関連づけて、その最適編成を検討する。

展開科目群

◆アントレプレナー特殊講義I(ビジネスインキュベーション)

- ①「ビジネス・インキュベーション」とは創業支援事業、すなわち、企業を希望する者、あるいはまだ事業経験の少ない者へ起業や企業経営のための知識やノウハウ、不足する経営資源、創業施設を提供して創業支援することである。まず、このビジネス・インキュベーションの意義・役割・構造について議論する。
- ② 日本経済における中小企業の多様性の理解や特にベンチャー企業の位置や果たす役割、起業の意義、ベンチャー企業支援策を紹介する。
- ③ ベンチャー企業の市場戦略や経営システム等に関する基礎的知識を理解した後、ベンチャー企業に関わるビジネスケースを通読すること、ベンチャー企業や起業家が出会う様々な状況に対する判断能力と問題解決能力を養う。

◆アントレプレナー特殊講義II(製品事業化システム論)

独立系ベンチャーと企業内ベンチャーとに分けて議論を進め、主としてハイテクスタートアップの本質に迫っていく。最終的に先端科学技術を事業化へ向けていくための方策について、一定の考え方を獲得することを目標とする。

◆アントレプレナー特殊講義III(知的財産戦略論)

知的財産法は、経済的な価値のある情報に対して「財産」としての法的取扱いを行う際の諸問題を考察する分野である。企業及び社会が必要とする知的財産権についての基礎から応用までの知識を修得する。また、本来のフィールドは法学にあるが、技術的知見をも必要とする極めて学際的な分野でもあるため、その活用能力を育成するためのケーススタディーを積極的に行う。

◆アントレプレナー特殊講義IV(イノベーション戦略論)

本講義では、技術変化の速度や技術変化の方向性の予測の他、技術変化が市場や産業構造に及ぼす影響を予測するための技法、新しい技術を製品やサービス、そして製造に実践するのを容易ならしめる技法など、多岐に亘る技法の知識とスキルの習得を目的とする。

実践科目群

◆アントレプレナー実践講座

本講座は、創造的問題発見や解決能力の獲得といった点を重視し、15名程度の少人数講座として開設する。「問題意識」「志」「プランニング」「行動」等の各ステップのケース解説と、実際に自分で取り組んだ内容をレポートする。

◆起業活動インターンシップ演習

BKCインキュベータ入居企業等ベンチャー企業への長期(6ヶ月以上)実践型インターンシップとして、就業体験や定型作業ではなく、準社員の業務内容とし、課題解決型のインターンシップとする。

◆起業支援インターンシップ演習

インキュベーションマネージャー(IM)室での長期(6ヶ月以上)実践型インターンシップ。インキュベータ企画運営業務(IM補助業務)、入居企業支援業務(販売促進支援、経理実務支援等を外部のコンサルタントや会計士の指導に基づき実施)を業務内容とし、課題解決型のインターンシップとする。

◆産学協同アントレ・起業活動インターンシップ演習

コンソーシアム企業の協力により、産業界における具体的なテーマを基に、その解決に取り組むインターンシップとする。



2007年11月
1回生のみ
募集予定

立命館大学 産学協同アントレプレナー 教育プログラム

募集要項 2007年度入学者募集版

【対象】 経済学部・経営学部・理工学部・情報理工学部 1回生

Entrepreneurship Program

◆ガイダンス日程

- 1回目 11月12日(月) 午後5時30分～
- 2回目 11月16日(金) 午後5時30分～
- 3回目 11月28日(水) 午後5時30分～
- 会場 コラーニングハウス105

※1・2・3回とも同じ内容で実施しますので、いずれかのガイダンスに参加してください。

Teacher's Message

黒木 正樹
経営学部准教授



アメリカの大学で経営学を学び、競争を生きてきた私が培った哲学は、「より強い個人アントレプレナーを生むことが、経済や社会を活性化させるための必須条件である」ということです。

90年代前半、私はネブラスカ州の大学で教壇に立ち、数多くのアメリカ人学生と日本の経営に関して議論をし、また人生観を議論してきました。その中で私は、アメリカと日本の学生を比較して、日本人は「個人として生きていく力」が決定的に弱いということを感じました。終身雇用、年功序列型の日本社会では、幼少期よりグループ・組織に属するための教育が最も価値があると言ふ前提の教育を受け、個人としての生きていく力と責任はあいまいになっています(勝手主義ではありません)。21世紀のグローバル社会では、一人一人が自己責任を意識し、組織に属さなくても個人として強く生きていくための基礎学力を身につけていくことが大切です。

「アントレプレナーシップ」と呼ばれる起業家精神は、必ずしも独立して起業するためのものではありません。自分の人生にチャレンジできるかどうかを問うものです。自分の生き方を見つめなおし、社会に貢献し、自己解決能力を身につけ、組織に属さなくても個人として強く生きていくための基礎学力を身につけた人間になるための精神だと私は考えます。

Students' Message

内山 祐紀
経済学部 3回生



私は漠然と将来起業したいと考えており、そのときに産学協同アントレプレナー教育に出会い熱い思いを込め応募しました。経済学部所属してありますが、起業することに対する知識というもの全く持っていませんでした。しかし、このプログラムを通じ、アントレプレナーとして第一線に立てられる先生方や、現役の企業の社長様の話を通じて聞くことができ、普通の講義では学ぶことのできないものを身に付けたと思います。産学協同アントレプレナー教育を受け物事の裏側を見る力、実行力といったものを直に学び、私は立命館大学に来て良かったと思えるようになりました。

堤 貴志
理工学部 3回生



理工学部の勉強は基本的に座学が多く、また2回生以上になれば実験等非常に忙しくなり自分の時間を持つことは困難になってきます。それにより、「外の世界」を見ることはほとんどなくなってしまいます。アントレプレナー教育プログラムではそのような極端的になりがちな理系の勉強から、大きな社会へ目を向けるきっかけになることは間違いありません。(起業を目指す人は当然のこと、それ以外の人も自分の視野を広げるために参加することをお勧めします。)理系の人には抵抗がありがちかもしれませんが、むしろ理系だからこそ参加するべきだと思います。

吉田 佳那子
経営学部 3回生



「アントレプレナー教育プログラム」を履修したことで、数多くのアントレプレナー精神に直接触れ、素晴らしい仲間とも出会い、自分自身を成長させました。このプログラムでは、起業家精神を学び取るだけでなく、ビジネスコンテストやプレゼンテーション、「アントレ・インターンシップ」など多くの実践を通して自分自身を成長させることが出来ます。また、どの科目も役立つものばかりで、起業家としての将来設計を早い段階から明確にすることが出来ます。「挑戦したい」「実力を付けたい」と考えている方は特に、参加することをお勧めします。

宮崎 紀行
情報理工学部 4回生



今、技術を学ぶ人こそ、このプログラムを受けて欲しい。このプログラムでは、新しいモノ・社会を生み出そうという「情熱家」たちと、「刺激」あふれる学びを得られます。自分の技術で何が創れるのか。社会にどんなインパクトを与えられるのか。そして「創りたい」と思ったとき、それをどうリアルに実現するのか。「刺激」が技術を発展させ、「技術」が新しい刺激を生む。アントレというフィールドで、あなたの「技術の未来」をもっと広げて欲しい。違うフィールドに踏み出す怖さ。忙しい毎日を想像してしまう不安。それでもワクワク感がちょっとでも上回るなら、是非挑戦して欲しい。その価値があると、私は自信をもってお勧めします。



本プログラムは、「起業家」に代表される「自立的で創造的な人材」「起業家精神（アントレプレナーシップ）に満ちた人材」の輩出を社会が期待していることを受け、BKC文理4学部共通のプログラムとして「産学協同アントレプレナー教育プログラム」を開発するものです。現在、「起業家」を養成しようと国や県、市も力を入れています。そういった社会的背景に対応し得る学生を育成できる環境が本学には十分整っています。

特に本学BKCの場合、24時間業務可能なオンキャンパス型学内施設として、現在ベンチャー企業が20社以上入居・活動し、そこに在籍学生が起業活動インターンシップとして参加している「BKCインキュベータ」が設置されています。また、実際に起業活動にチャレンジしようとする学生に対しては、その活動を促進させることを目的に、「学生ベンチャーコンテスト」や「学生起

業家支援奨励金」などの充実した起業支援施策を行ってきています。

さらに、本学はリエゾン活動を通して企業との深いつながりを有しており、その誇るべき産学官連携のネットワークを活かすかたちで、今回、本プログラムの開発を支援する「産学協同アントレプレナー教育プログラム開発コンソーシアム」を設置しており、講師派遣、インターンシップ受入、教材開発などにおいて企業からの協力を得るかたちで、産業界の主体的かつ積極的な参画を組織してきています。

本プログラムでは、アントレプレナーシップの本質を理解してもらうために導入科目を置くとともに、「基礎科目群」「展開科目群」「実践科目群」を配置していますが、とりわけ起業活動インターンシップなどの「実践科目群」を充実させてきており、単なる「座学」ではなく、実際に起業活動にチャレンジ

することを重視したカリキュラム内容としているのが大きな特色です。また、「コンソーシアム」には、本学の産学官連携の蓄積を基盤として、最先端技術を駆使するハイテク企業・ベンチャー企業が多数参画しており、現場企業の第一線で活躍されている方を講師に招聘しての講義は、圧倒的な迫力があり、必ずや、みなさんの起業へのモチベーションを高めてくれることでしょう。

こうしたカリキュラム内容を提供できるのも産学官連携の太いパイプを持ち、歴史的にも豊かな蓄積のある本学ならではといえます。このような「アントレプレナー」についてまとまった形で学べるプログラムは学部レベルでは日本でも初めてであり、本学BKCならではの試みといえるでしょう。みなさんの積極的な受講を期待するものです。



立命館大学 産学協同アントレプレナー教育プログラム

プログラムの位置づけ



中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」においてうたわれているように、21世紀は「知識基盤社会」であり、人々の知的活動・創造力が最大の資源である我が国にとって、優れた人材の養成は極めて重要な課題です。この「知識基盤社会」が求める人材は、「自立的で創造的な人材」であり、「アントレプレナーシップに満ちた人材」であるといえます。

一方、現代の大学教育は、依然として「教える知識」を基本として構成されており、こうした「自立的で創造的な人材」「アントレプレナーシップに満ちた人材」を養成する教育が、仕組みとして構築され、体系的に実践されているわけではありません。つまり、「アントレプレナーシップ」の重要性が社会的に認識されつつあるにもかかわらず、現在の大学教育において体系的な「アントレプレナーシップを涵養する教育プログラム」は、ほとんど存在していません。今回、本学がこの取組を行う背景には、このような社会的状況があります。

したがって、本プログラムでは、「自立的で創造的な人材」「アントレプレナーシップに満ちた人材の養成」を広義の目的とし、「起業」という社会的営みを中心的題材として置き、導入科目として「アントレプレナーシップ論」を配置し、アントレプレナーシップの本質の理解を促進し、各自が目的意識を明確にしながらプログラムの履修に取り組むことができるよう指導していきます。

このように、本プログラムはアントレプレナーシップの本質を理解させ、自ら起業を試みる機会に直面させることにより、起業家を育成するプログラムです。また履修生が明確な目的意識や問題意識を持つことにより、他の専門科目の意欲的履修が促進され、専門性の高い起業家が育成されることが期待されます。

本学としては、アントレプレナー教育について「創造教育」という範疇や意味で強い期待をよせており、人間形成や人間教育という枠組みでも大きな意義を持っていると考えています。

履修方法・科目編成

- (1)本プログラムは、BKC4学部(経済学部・経営学部・理工学部・情報理工学部)の共通プログラムであり、原則として16単位のパッケージ履修を履修要件とします。
- (2)導入科目としての「アントレプレナーシップ論」は必修科目です。
- (3)また実践科目群から1科目を必修とします。
- (4)なお、基礎科目群の履修を終了した段階で、次の展開科目群の受講にあたっては、原則として以下の先修条件的要件を課します。この要件をクリアできない場合は、次段階の履修としての展開科目群へは進めないこととなりますので、特に留意して履修にあたって下さい。

◆展開科目群への履修にあたっての先修条件的要件

展開科目群への履修を進めるためには、基礎科目群の履修において、必修科目である「アントレプレナーシップ論」の履修・単位認定を含め最低4科目以上の履修・単位認定を必要とし、なお修得した科目のうち成績上位4科目の総合成績評価がGPA基準で3.0以上(総合的な成績評価で「B」以上)であることを要します。

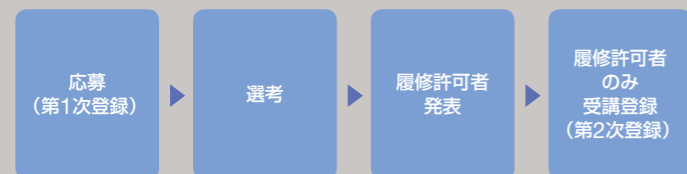


科目系列	科目名	単位	担当回生	開講時期
アントレプレナー基礎科目群	アントレプレナーシップ論(イノベーションと起業家精神)	2	2回生	前期(6時限開講)
	ベンチャービジネス論	2	2回生以上	前期(6時限開講)
	事業計画論	2	2回生以上	後期(6時限開講)
	資金計画論	2	2回生以上	前期(6時限開講)
アントレプレナー展開科目群	生産システム論	2	2回生以上	後期(6時限開講)
	アントレプレナー-特殊講義I(ビジネスインキュベーション)	2	3回生以上	前期(6時限開講)
	アントレプレナー-特殊講義II(製品事業化システム論)	2	3回生以上	前期(6時限開講)
	アントレプレナー-特殊講義III(知的財産戦略)	2	3回生以上	前期(6時限開講)
アントレプレナー実践科目群	アントレプレナー-特殊講義IV(イノベーション戦略論)	2	3回生以上	前期(6時限開講)
	アントレプレナー-実践講座	2	3回生以上	後期
	起業活動インターンシップ演習	2~4	3回生以上	通年(原則的に3回生の夏以降に行くことを想定)
	起業支援インターンシップ演習	2~4	3回生以上	通年(原則的に3回生の夏以降に行くことを想定)
産学協同アントレ	起業活動インターンシップ演習	2~4	3回生以上	通年(原則的に3回生の夏以降に行くことを想定)

※開講時期は原則的なものを示しており、必ずしも当該時期に開講されない場合もあります。各年度の開講計画・時間割等で必ず確認するように留意してください。

プログラムの登録方法

プログラムの受講を希望する場合、以下の流れで登録を行う必要があります。



応募(第1次登録)について

- ◇応募期間 / 2007年11月12日(月)~12月3日(月) ※日時厳守
- ◇応募方法 / 指定の用紙(プログラム出願票・成績表の写しを添付)を提出
- ◇提出先 / 提出先は「学びステーション」の窓口まで
「学びステーション」…プリズムハウス1階(月~金 / 9:00~18:30)

※今回の募集人数は全体で70名程度とする予定です。希望者多数の場合は志望理由等により選考する場合があります。

履修許可者発表

2007年12月21日(金) 13:00 所属学部の掲示板にて発表
※履修を許可された場合、辞退を申し出ることは原則として認めません。

受講登録(第2次登録) ※履修許可者のみ

2008年4月に行う受講登録の際、学部ごとに指定された期間中にプログラム科目も受講登録用紙に記入して登録をしてください。この登録を行わなければ、プログラム受講者として確定しませんので、注意してください。その他連絡事項は、所属学部の掲示板でお知らせします。

